

(別紙)

## 耐震計算の誤入力に係る再発防止対策の実施状況

平成30年10月  
日本原燃株式会社

## 1. はじめに

平成19年8月21日、当社社長は、青森県知事に再処理施設における耐震計算の誤入力に係る報告を行い、平成19年8月31日、青森県知事から以下の4項目について要請を受けた。

- (1) 耐震計算誤入力の再発防止対策に係る監査の実施
- (2) 風通しのよい職場風土の醸成及びコンプライアンスの徹底
- (3) 耐震計算誤入力の件についての広聴広報活動の実施
- (4) 日本原子力技術協会による当社と協力会社との連携についての評価

これら4項目について、平成30年7月から平成30年9月までの実施状況を以下に報告する。

## 2. 実施状況

### (1) 耐震計算誤入力の再発防止対策に係る監査の実施

計算機による設計解析を行う安全性評価業務が新たに発生した場合に、耐震計算誤入力の再発防止対策に係る監査を実施することとしているが、当該業務は発生していない。

### (2) 風通しのよい職場風土の醸成及びコンプライアンスの徹底

#### ①風通しのよい職場風土の醸成に関する活動について

従来の「挨拶運動」等に加え、原子力規制委員会からの「核原料物質、核燃料物質及び原子炉の規制に関する法律第67条第1項の規定に基づく報告の徴収について（濃縮・埋設事業所（加工施設）」（平成28年12月14日付）を受け策定した改善活動計画に基づき、以下の活動を実施した。

- ・経営層同士、経営層と社員、社員同士の対話活動の実施
- ・職場風土の現状把握のためのアセスメントの実施
- ・職場風土改革に関する研修の実施

#### ②コンプライアンスの徹底に関する活動について

##### ○コンプライアンスの徹底に関する活動

第2回コンプライアンス推進委員会（平成30年3月20日開催）で審議した「平成30年度コンプライアンス推進活動方針及び計画」に基づき、従業員の意識・知識の向上等に向けた活動に取り組んでいる。

平成30年度は、平成29年度の活動状況を振り返り、「研修の充実」「対話活動の定着」「モニタリング活動の拡大」「グループ会社の活動支援」を重点実施事項としている。

平成30年度第2四半期は、新任管理職、中途採用者等への各階

層別のコンプライアンス研修、法令手続き漏れ防止を図る連絡会、メールマガジンの発行、グループ会社との対話等の推進活動を実施した。

#### ○安全文化講演会

安全文化醸成活動を強固に推進する上で必要な管理職のリーダーシップおよびマネジメントの強化を目的とし、平成30年9月6日から9月7日の期間で実施した。

#### ○協力会社への個別訪問

平成29年度の活動を通じ得られた気づき等を踏まえ、当社が取り組んできた活動の状況を協力会社へフィードバックし、協力会社から当社の改善状況について意見をもらうことを目的とした協力会社の個別訪問（24社）を、平成30年9月3日から9月19日までの期間で実施した。

### （3）耐震計算誤入力の件についての広聴広報活動の実施

耐震計算誤入力の件については、新聞広告や当社広報誌、地域会議などを通してお知らせしている。（平成19年10月29日に報告済）

今後も当社事業全般に関して様々な広聴活動を継続するとともに、頂いたご意見を踏まえて、わかりやすい広報活動に取り組んでいく。

### （4）日本原子力技術協会による当社と協力会社との連携についての評価

平成19年12月27日に日本原子力技術協会（現 原子力安全推進協会）より受領した「協力会社との連携に関する特定評価」における改善要望に対する当社の取組み状況の確認結果について、平成21年2月3日に日本原子力技術協会より報告を受けた。（平成21年4月16日に報告済）

今後、改善要望に対する取組み状況について然るべき時期に改めて確認を受けることとなっている次の項目については、以下のとおり対応している。

- ①「協力会社に発注した業務の管理」
- ②「協力会社とのコミュニケーション改善」
- ③「言い出せる文化・職場風土の醸成」
- ④「コンプライアンス（企業倫理遵守）の取組み」

上記の①の項目については、「業務に精通した主管部署や品質保証部の監査への積極的な参加」や「工事を伴わない解析業務の一貫した管理のルール化」等、確実な設計管理を行うための仕組みを構築し、運用している。

上記の②、③、④の項目については、前述の「2.(2)風通しのよい職場風土の醸成及びコンプライアンスの徹底」において取り組んでいる。

以 上